

第59回試験研究成果発表会（林業）発表概要

【動画配信期間】 令和4年2月21日(月)～3月18日(金)

【場 所】 YouTube「千葉県公式セミナーチャンネル」

発表1 成果発表

省力的な再造林のためのコンテナ苗の特性と下刈り省略の可能性

森林研究所 福島 成樹

県産木材の利用促進に向けて、木材生産の省力化、低コスト化が求められています。そこで、本県に合った省力的な再造林技術の開発を目的に、コンテナ苗の植栽方法、活着率、初期成長と、保育作業における下刈りの一部省略について調査を行いました。その結果、コンテナ苗は裸苗に比べて植栽適期が長く活着率が高いこと、専用の植栽器具を使用することで植栽時間を短縮できることが明らかになりました。また、植栽後4年目の下刈りは、条件によっては省略できる可能性があることがわかりました。



スギのコンテナ苗



コンテナ苗植栽器具

発表2 成果発表

多様化した木材利用に係る木材流通状況の把握

森林研究所 黒瀬 弘毅

岩澤 勝巳

近年、木質チップ生産やバイオマス発電など、製材利用以外の木材流通が拡大していますが、本県の木材流通・加工業界は小規模経営体が多く、その流通実態はあまり把握されていません。本調査では県が実施したアンケート調査をもとに、素材生産者、木材加工業者などの木材関連業者に対して聞き取り調査を実施し、素材の出荷先や木材調達時に意識することなどの流通に関する情報をまとめました。



市場に集積された丸太

発表3 成果発表

スギ人工林における高木性広葉樹の実生分布特性

森林研究所 向井 愛美

森林の持つ多面的機能の発揮が期待される中、管理ができなくなった人工林を針広混交林化（又は広葉樹林化）することにより多様で健全な森林を造成することが求められています。そこで、県内の40年生以上のスギ人工林内において、針広混交林に必要な高木性広葉樹の実生の分布特性を調べたところ、高木性広葉樹の実生は地域により樹種とその本数に差があることが明らかとなりました。



君津市の県有林内



南房総市の県有林内

発表4 成果発表

クロマツ幼齢木を松くい虫から守る薬剤防除技術

森林研究所 福原 一成

海岸防災林再生のため植えられたクロマツ苗木の成長に伴い、成木だけでなく幼齢木についても松くい虫から守る薬剤散布が必要になってきました。そこで、幼齢木への最適な散布量を試験したところ、従来の散布量の75%でも松くい虫防除効果が得られました。また、樹高が周囲の防風竹柵を超える1.3m程度になった時点から、薬剤散布を実施する必要があることが明らかになりました。



海岸防災林における
クロマツ幼齢木の状況